

受理第8－1号

請 願 書

件 名

宇治市立学校における平和教育関連プログラムの見直しと
情報リテラシー教育への転換を求める請願

紹介議員

荻原 豊久

令和 8 年 9 月 3 日

宇治市議会議長
木本 裕章 様

請願者

住所: [REDACTED]

氏名: 小澤正人

電話: [REDACTED]

宇治市立学校における平和教育関連プログラムの見直しと 情報リテラシー教育への転換を求める請願

請願趣旨及び理由

戦争の歴史を学び、命の尊さや社会のあり方について考えることは重要です。そのこと自体を否定するものではありません。

しかし、公教育が担うべき役割は、児童生徒に特定の平和観や政治的立場を教え込むことではありません。公教育が行うべきことは、児童生徒が様々な情報を受け止め、事実を確認し、異なる意見を比較し、自ら考え、判断できる土台を育てることです。

平和は、学校から一つの結論として与えられるものではありません。児童生徒が、歴史的事実、当事者の証言、報道、行政資料、現地での説明、異なる立場の意見などを読み解き、自分の頭で考えるべきものです。

そのため、公教育において必要なのは、特定の結論へ導く「平和教育」ではなく、情報の発信者、根拠、背景、異なる意見、情報の偏り、感情に訴える表現の影響を確認できる情報リテラシー教育です。文部科学省も、情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」の一つと位置づけています。

令和 8 年 3 月 16 日には、沖縄県名護市辺野古沖において、京都府内に所在する同志社国際高等学校の研修旅行中に重大な船舶事故が発生しました。文部科学省は、この事故について京都府を通じて確認を行い、京都府と連携して現地調査を行ったうえで、学校法人同志社及び京都府に対して改善・指導を求めています。

この事案では、平和学習の名の下で、抗議活動に使用される船舶への乗船、安全管理、保護者説明、教育の政治的中立性等が問題となりました。文部科学省資料では、辺野古テント村の見学、ボート乗船、抗議活動に関する説明などの経緯も確認されています。

これは特定の学校のみの問題として終わらせるのではなく、宇治市立学校における修学旅行、校外学習、平和学習その他の平和教育関連プログラムのあり方を確認する契機とすべきです。

宇治市立学校においても、被爆体験講話、平和セレモニー、折り鶴、平和メッセージ、平和公園や原爆資料館の見学など、平和教育に関連する取組が行われている事例が確認できます。

例えば、宇治市立宇治中学校では、原爆資料館へ寄贈する折り鶴と平和メッセージを作成したことが公開されています。また、宇治市立東宇治中学校では、修学旅行に向けて3学期から平和学習を行い、平和への思いを形にするために折り鶴を折ったことが公開されています。

これらの学習自体を一律に否定するものではありません。しかし、被爆体験講話、慰霊施設でのセレモニー、折り鶴や平和メッセージの作成、フィールドワーク、講演、感想文作成等は、児童生徒の心情に強く働きかける教育活動でもあります。

また、今後、沖縄方面への修学旅行や平和学習として、ガマ・壕への入壕、船舶への乗船、基地周辺施設の見学、現地講師・ガイドによる講話等を実施する場合には、通常の教室とは異なる特殊な環境の中で、児童生徒に強い心理的影響を与える可能性があります。

市内の事例ではありませんが、沖縄修学旅行におけるガマ体験について、暗闇体験が強い恐怖として記憶に残ったとの証言や、気分が悪くなる生徒がいたとの報道もあります。これは平和学習そのものを否定する根拠ではありませんが、暗闇、閉所、慰霊空間、集団行動、現地講話といった特殊な環境を用いる教育活動については、児童生徒の心理的負担、同調圧力、一方的な価値判断の誘導が生じていなかったかを確認する必要があります。

公立学校における教育活動には税金が投入されており、修学旅行、校外学習、平和学習も公教育の一環として実施されます。したがって、教育プログラムの目的、実施内容、委託先、講師・ガイド、配布資料、安全管理、保護者説明、事後評価については、教育委員会として検証し、可能な範囲で公開する必要があります。

よって、宇治市教育委員会においては、公教育として特定の平和観や政治的結論へ児童生徒を導く平和教育関連プログラムについて、廃止を含めて見直しを行うとともに、児童生徒が多様な情報を読み解き、自ら考え、判断できる土台づくりとして情報リテラシー教育を実施し、その教育プログラム及び実施内容を可能な範囲で公開するよう求めます。

請願項目

1. 宇治市立学校における過去5年間の修学旅行、校外学習、平和学習その他の平和教育関連プログラムについて、実施状況を調査すること。特に、被爆体験講話、慰霊施設でのセレモニー、平和宣言、折り鶴・平和メッセージ等の作成、感想文作成、フィールドワーク、講演、ガマ・壕への入壕、船舶への乗船、基地周辺施設の見学、現地講師・ガイド・語り部による講話等の有無を確認すること。
2. 平和教育について、実施目的、実施内容、行程表、委託先、講師・ガイド、配布資料、ワークシート、感想文作成の指示内容、安全管理、保護者説明、同意確認、事故等の有無を確認し、個人情報及び学校運営上支障のある情報に配慮したうえで、可能な範囲で公開すること。
3. 平和学習、講話、慰霊行事、平和宣言、感想文作成、折り鶴・平和メッセージ等の作成、フィールドワーク、ガマ・壕への入壕、船舶への乗船、基地周辺施設の見学等において、児童生徒に対する心理的圧迫、同調圧力、一方的な価値判断の誘導、特定の政治的主張への事実上の賛同を促す内容が含まれていなかったかを、教育委員会として検証すること。
4. 公教育として、特定の平和観や政治的結論へ児童生徒を導く平和教育関連プログラムについては、廃止を含めて見直すこと。そのうえで、児童生徒が戦争、基地、人権、国際情勢等の課題について自ら考え判断できる土台づくりとして、情報の発信者、根拠、背景、異なる意見、情報の偏り、感情に訴える表現や特殊環境が判断に与える影響等を確認する情報リテラシー教育を行い、その教育プログラム及び実施内容を可能な範囲で公開すること。

参考資料

宇治市立学校における平和教育関連プログラムの事例及び確認観点

1 制度上の参考

項目	内容	引用元
情報活用能力	文部科学省資料では、情報活用能力は「学習の基盤となる資質・能力」の一つと位置づけられている。	文部科学省「情報活用能力の育成」

2 宇治市立学校で確認できる公開事例

校名・施設名	確認できる内容	請願上の確認観点	引用元
宇治市立宇治中学校	原爆資料館へ寄贈する折り鶴と平和メッセージを作成。学校 HP では、「今、あなたが考える平和とは？」という問いに向き合う学習として紹介されている。	折り鶴・平和メッセージ作成時の自由意思、同調圧力、感想形成過程、情報リテラシー教育の有無。	宇治市立宇治中学校「活動の様子」
宇治市立東宇治中学校	修学旅行に向けて3学期から平和学習を行い、平和への思いを形にするために折り鶴を折ったことが公開されている。	事前学習、折り鶴作成、平和への思いの形成過程、同調圧力の有無。	宇治市立東宇治中学校「修学旅行」
宇治市立平盛小学校	たてわり班で平和学習の一環として折り鶴づくりを実施。高学年が低学年に折り方を教える様子が紹介されている。	小学生への心情的働きかけ、学年差のある集団活動、任意性、事前・事後指導。	宇治市立平盛小学校「活動の様子」
宇治市立北宇治中学校	修学旅行で、平和記念資料館の見学や被爆体験講話を聞く平和学習が確認できる。	被爆体験講話、資料館学習、事前・事後指導、感想形成過程。	宇治市立北宇治中学校トップページ掲載情報
宇治市立槇島中学校	修学旅行に向けた事前学習として、生徒が「戦争」に関わるテーマを決めて調べ学習を実施。	調べ学習の資料選定、多面的資料提示、情報リテラシー教育との関係。	宇治市立槇島中学校「活動の様子」
宇治市立西宇治中学校	全校生徒を対象に、一般財団法人京都府遺族会の方々による講演を実施。	講演内容、講師選定、戦争体験の伝え方、多面的資料提示、感想形成過程。	宇治市立西宇治中学校「日々の様子」

3 ガマ・壕、暗闇体験に関する参考情報

区分	内容	請願上の確認観点	引用元
ガマ入壕体験の一般的内容	おきなわ修学旅行ナビでは、八重瀬町のガマ入壕体験について、沖縄戦で使用されたガマに入り、当時の暗闇を体験し、ガイドによる沖縄戦の話を通じて平和について考えるプログラムとして紹介している。	暗闇体験の実施有無、実施目的、安全・心理面への配慮、情報の多面的提示。	おきなわ修学旅行ナビ「八重瀬町 ガマ入壕体験」
ガマ入壕体験の具体的流れ	同サイトでは、ガマ入壕体験の流れとして、沖縄戦の話、ガマ入壕、黙とう、暗闇体験が紹介されている。	黙とう・暗闇体験が児童生徒の判断や感情に与える影響。	おきなわ修学旅行ナビ「八重瀬町 ガマ入壕体験」
追体験型プログラム	別の沖縄修学旅行ナビ掲載プログラムでは、ガマに入ることによって当時の住民や学徒を追体験し、平和や差別について考えると説明されている。	「追体験」による心理的負担、教育目的、事前説明、保護者同意。	おきなわ修学旅行ナビ「沖縄戦で使われたガマ入壕体験」
暗闇体験に関する報道	沖縄修学旅行におけるガマ体験について、暗闇体験が強い恐怖として記憶に残ったとの証言や、気分が悪くなる生徒がいたとの報道がある。	心理的負担、暗闇体験の適否、児童生徒・保護者への説明、同意確認。	世界日報「続・検証 沖縄平和教育(中)」
現地ガイド側の問題提起	琉球新報では、ガマ・壕の保存や活用をめぐり、壕の中に入らずに沖縄戦を伝える新しい取り組みや、「大切なのは暗闇体験ではない」とする問題提起が報じられている。	平和学習が暗闇・恐怖体験に偏っていないか。	琉球新報「大切なのは暗闇体験ではない」

4 請願で求める確認事項

確認対象	確認すべき内容
実施目的	平和教育として特定の平和観や政治的結論に誘導する目的が含まれていなかったか。
実施内容	被爆体験講話、慰霊施設、折り鶴、平和メッセージ、ガマ・壕、語り部講話等の具体的内容。
委託先・講師	現地ガイド、講師、団体、旅行会社、NPO、宗教者、政治的主張を有する団体との関係。
配布資料	一方的な政治的主張、反対意見の欠如、発信者や根拠が不明確な資料の有無。
児童生徒への影響	暗闇、閉所、集団行動、慰霊空間、講話等による心理的負担や同調圧力の有無。
保護者説明	危険性、教育内容、委託先、政治的主張との接点、安全管理、同意確認の有無。
情報リテラシー教育	発信者、根拠、背景、異なる意見、情報の偏りを確認する学習が行われていたか。
プログラム公開	情報リテラシー教育として実施する場合、その目的、教材、授業内容、実施結果が公開されているか。